

「原本信長記」(国立公文書館蔵)
元龜元年10月20日条

古文書から見た
戦国合戦
～私部城を巡る攻防～
VOL. 3

松永久秀裏切る!敵は私部城にあり!

私部城の登場と久秀の裏切り

第3回は、私部城の登場と松永久秀が織田信長に反旗を翻すことになった経緯を、私部城主安見氏との関係から紹介していきます。
問い合わせ 社会教育課文化財係(TEL 893-8111)



若江城壁下地出土状況
(東大阪市教育委員会)



高屋城跡(国土地理院)

私部城の登場

元龜元年(1570)6月28日に、信長は近江(滋賀県)姉川の戦いで、浅井・朝倉連合軍を破りますが、今度は三好三人衆と大坂本願寺住職の頭如が信長に対して挙兵し、信長は包囲網の中で苦しむこととなります。

「信長公記」には、三好三人衆方に対する信長方の勢力の城として、皇山秋高の高屋城、三好義継の若江城など守護クラスの人物が治める城とともに、「片野」に安見右近の私部城があったことが記されています。私部城の安見右近が、河内地方で、一定の統治権をもつ武将であったことがわかります。

裏切りの犠牲となった安見氏

広報5月号では、私部城をめぐる織田信長軍と松永久秀軍の戦いを紹介しました。両者の対立は、久秀の信長に対する裏切りによるものですが、この裏切りの始まりに私部城主の安見右近が関わっています。

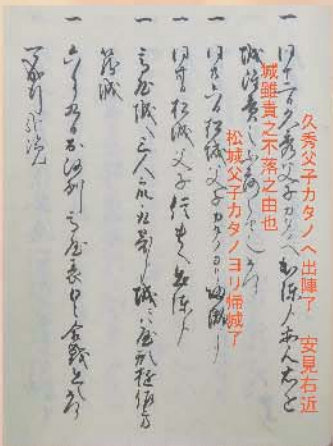
もともと、久秀は信長が関西へ進出した時にいち早くその軍勢に加わり、友好関係を保っていました。右近はこの時、久秀の配下として共に織田方につきました。

右近自身も、織田の重臣・佐久間信盛の娘と結婚し、独自に織田軍の中で地位を確立していました。

しかし、元龜2年(1571)5月11日、右近は久秀の本拠地・奈良へ呼び出されました。この時の両者のやり取りは不明ですが、結果として右近は切腹に追いやられ、不退寺で待機していた右近の家臣は、久秀方の菊川衆と対陣することになりました。

その翌日、久秀が私部城を攻めたことが、「多間院日記抄」などにも書かれています。織田軍の中で地位のある右近を殺害し、織田方の拠点の私部城を攻めたことは、久秀の信長に対する初めての裏切り行動でした。

右近の切腹は、久秀の信長への裏切りの誘いを断つたためとも考えられています。松永と織田の間で翻弄され右近は死去しましたが、私部城はこの年に攻め落とされることなく、久秀は奈良へ帰還しました。



「多間院日記抄」(国立公文書館蔵)
元龜2年 5月12日条・26日条

不退寺

安見右近の家臣が陣取っていた不退寺は、奈良市法蓮町にある真言律宗の寺院です。在原業平が、自身で作った聖観音菩薩像を安置したと伝えられています。治承4年(1180)の南都焼討ちで諸堂が炎上しますが、鎌倉時代に観尊により再興され、律宗寺院となりました。



不退寺(「大和名所図会」より)

コラム



広報かたの編集と発行
No.793

交野市役所企画財政部秘書広報課 〒576-8501 大阪府交野市私部1丁目1番1号
TEL 072-892-0121 FAX 072-891-5046 発行：2018年6月1日